

# 11 . 管理データ様式

受注者は、施工管理（出来形管理、品質管理）の結果について、以下に示す（１）指定様式又は（２）自由様式を用いて提出しなければならない。なお、本記載様式に代えて、受注者・製造会社等が独自に作成した様式や土木学会等制定の一般市販品の様式を用いることも可能であるが、この場合、土木工事施工管理基準に示す必要なデータが記録可能であることを受注者自らが確認するものとする。また、本様式に示されていない場合についても、同様とする。

## （１）指定様式一覧

- 様式 - 1 施工管理総括表の表紙記入例
- 様式 - 2 でき形測定結果表
- 様式 - 3 でき形測定取まとめ図
- 様式 - 4 舗装路面の平坦性測定
- 様式 - 5 土質試験結果一覧表
- 様式 - 6 土、凍上抑制層の突固め試験
- 様式 - 7 現場における土の単位体積重量試験（砂置換法）
- 様式 - 8 盛土締固め総括表
- 様式 - 9 凍上抑制層、路盤工 材料試験成績一覧表
- 様式 - 10 凍上抑制層、下層路盤 材料のふるい分け試験一覧表
- 様式 - 11 路盤材料の突固め及び修正 C B R 試験成績表
- 様式 - 12 路盤材締固め度測定総括表
- 様式 - 13 基層、表層工の骨材試験成績一覧表
- 様式 - 14 ふるい分け試験取まとめ図
- 様式 - 15 アスファルト混合物の温度測定結果一覧表
- 様式 - 16 アスファルト混合物の密度試験結果一覧表
- 様式 - 17 計量自記々録合格判定値
- 様式 - 18 計量自記々録値判定成果
- 様式 - 19 コンクリート管理試験日報
- 様式 - 20 空気量、スランプ等の取りまとめ図
- 様式 - 21 骨材試験成績一覧表
- 様式 - 22 コンクリート骨材ふるい分け試験取まとめ図
- 様式 - 23 コンクリート品質検査報告書
- 様式 - 24 寒中コンクリート温度管理記録表
- 様式 - 25 レディーミクストコンクリート配合計画書
- 様式 - 26 レディーミクストコンクリート納入書
- 様式 - 27 注入モルタル、プレパクトコンクリート管理試験日報
- 様式 - 28 注入コンクリート報告書
- 様式 - 29 注入コンクリート配合報告書

- 様式 - 30 P C グラウト工試験
- 様式 - 31 プレストレッシング管理表(1)
- 様式 - 32 プレストレッシング管理表(2)
- 様式 - 33 高力ボルト締付け検査記録票
- 様式 - 34 キャンバー測定記録表
- 様式 - 35 膜厚測定記録
- 様式 - 36 塗膜厚の度数分布表
- 様式 - 37 くい打込み記録表
- 様式 - 38 くい貫入量測定記録図
- 様式 - 39 場所打ちくい施工記録票
- 様式 - 40 場所打ちくい管理記録図
- 様式 - 41 井筒、深礎 施工記録表
- 様式 - 42 井筒、深礎 施工管理図
- 様式 - 43 地点標設置成果表
- 様式 - 44 地点標設置工事現地地点検調書
- 様式 - 45 水門出来形記録表
- 様式 - 46 捨石均し出来形測定表
- 様式 - 47 基礎工 均し出来形図
- 様式 - 48 基礎工 均し出来形平面図
- 様式 - 49 杭出来形管理表
- 様式 - 50 杭打込記録
- 様式 - 51 矢板出来形管理表
- 様式 - 52 ケーソン製作管理表
- 様式 - 53 ケーソン据付管理表
- 様式 - 54 ブロック製作出来形管理表
- 様式 - 55 中詰・蓋コンクリート出来形管理表
- 様式 - 56 上部コンクリート出来形測定表
- 様式 - 57 洗掘防止マット出来形測定表
- 様式 - 58 出来形平面図
- 様式 - 59 係船柱出来形管理表
- 様式 - 60 防舷材出来形管理表
- 様式 - 61 車止め出来形管理表
- 様式 - 62 トンネル内空断面出来形測定結果表
- 様式 - 63 二次覆工打設前巻立空間測定結果表
- 様式 - 64 二次覆工出来形測定結果表
- 様式 - 65 吹付コンクリート出来形測定結果表
- 様式 - 66 ロックボルト出来形測定結果表(1)
- 様式 - 67 ロックボルト出来形測定結果表(2)
- 様式 - 68 細骨材試験成績報告書(吹付コンクリート)
- 様式 - 69 吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書

様式 - 70 ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表

様式 - 71 ロックボルト定着確認試験成績報告書

( 2 ) 自由様式一覧

様式 - 自 1 試験盛土による盛土締固め総括表

様式 - 自 2 コンクリート強度試験表 ( シュミットテストハンマーによる )

様式 - 自 3 ひび割れ調査票 ( 1 )

様式 - 自 4 ひび割れ調査票 ( 2 )

様式 - 自 5 ひび割れ調査票 ( 3 )

様式 - 自 6 ひび割れ調査票 ( 4 )

様式 - 自 7 ひび割れ調査票 ( 5 )

上記の自由様式に関する本書の記載例は、参考扱いとする。

様式-1

(施工管理総括表の表紙記入例)  
A-4版(21×297)

	総括監督員	主任監督員	監督員
	15mm	15mm	15mm

(施工年度)

(路線名・河川名)

(工事名)

(施工管理の種別)

(施工者) 受注者

(現場代理人) 氏名 ㊦

(主任技術者  
又は監理技術者) 氏名 ㊦

(測定者) 氏名 ㊦

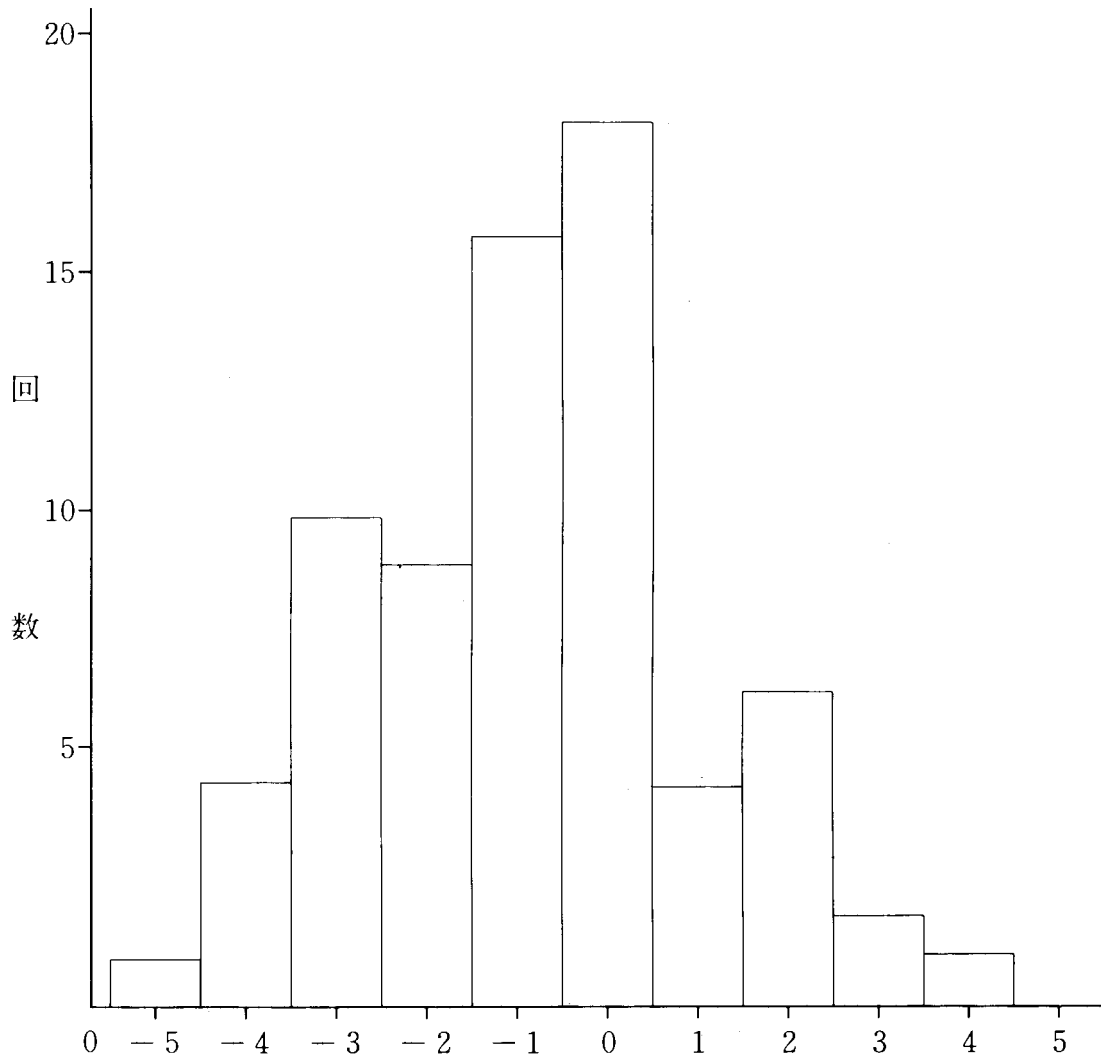
〇〇工事でき形測定総括表  
品質管理



〔記入要領〕

- イ 路床・路盤・舗装体各層の設計値と測定値とのずれの差を記入する。
- ロ この図は、請負者測定の結果を整理したもののみを記入する。
- ハ 図の下には、算術平均値を記入する。

工種名	細粒度アス・コン工	高さの出来形測定
-----	-----------	----------



設計値とのずれの差(cm)

測定数 71

$$\left. \begin{array}{l} \text{差} -85 \\ \text{+26} \end{array} \right\} -59 \therefore \text{ずれの差の平均} = \frac{-59}{71} = -0.83\text{cm}$$

様式 - 4		舗装路面の平坦性測定				試験 用紙 報告			
調査・工事名 _____		測定年月日 _____ 年 ____ 月 ____ 日							
測定開始点 _____		測定機の種類 <input type="checkbox"/> 3 m <sup>2</sup> プロファイルメータ							
測定終了点 _____		<input type="checkbox"/> 3 m直線定規							
測定距離 _____		測定者 _____							
シート番号 _____									
No.	d	No.	d	No.	d	No.	d	No.	d
1		21		41		61		81	
2		22		42		62		82	
3		23		43		63		83	
4		24		44		64		84	
5		25		45		65		85	
6		26		46		66		86	
7		27		47		67		87	
8		28		48		68		88	
9		29		49		69		89	
10		30		50		70		90	
11		31		51		71		91	
12		32		52		72		92	
13		33		53		73		93	
14		34		54		74		94	
15		35		55		75		95	
16		36		56		76		96	
17		37		57		77		97	
18		38		58		78		98	
19		39		59		79		99	
20		40		60		80		100	
①	Σ d (mm)		*		②	Σ d <sup>2</sup> (mm <sup>2</sup> )		*	
③	データ数	*	標準偏差 $\sqrt{((2)-①^2/③)/((③)-1)}$ (mm)				*		
備考									
注) * 印の欄は、最後のデータシートのみ記述する。									

様式 - 5

土質試験結果一覧表

工種名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

㊦

試料土 No.									
試料土の深さ	地表面から								
	基準面から								
試料土採取年月日									
試料土採取時の天候									
土粒・子の密度									
粒 度	最大径								
	2.0mmふるい通過率 %								
	425 μ " %								
	75 μ " %								
コ ン シ ス イ	液性限界 %								
	塑性限界 %								
	塑性指数								
分 類	統一分類法								
	日本統一分類法								
	見かけ								
自 然 土 と 土	現場含水比 %								
	現場乾燥密度 g/cm <sup>3</sup>								
	最適含水比 %								
	最大乾燥密度 g/cm <sup>3</sup>								
円 錐 貫 入 試 験 ( コ ン シ ス イ 指 数 )	地山 (N = 0)								
	室内	N = 20							
		N = 40							
		N = 80							
		N = 120							
ボーリング柱状及び中心線に沿う土層断面図									

記 事

注) 記事欄には試験機関名その他の試験結果等を記入すること。



様式-6

# 土 凍上抑制層の突固め試験

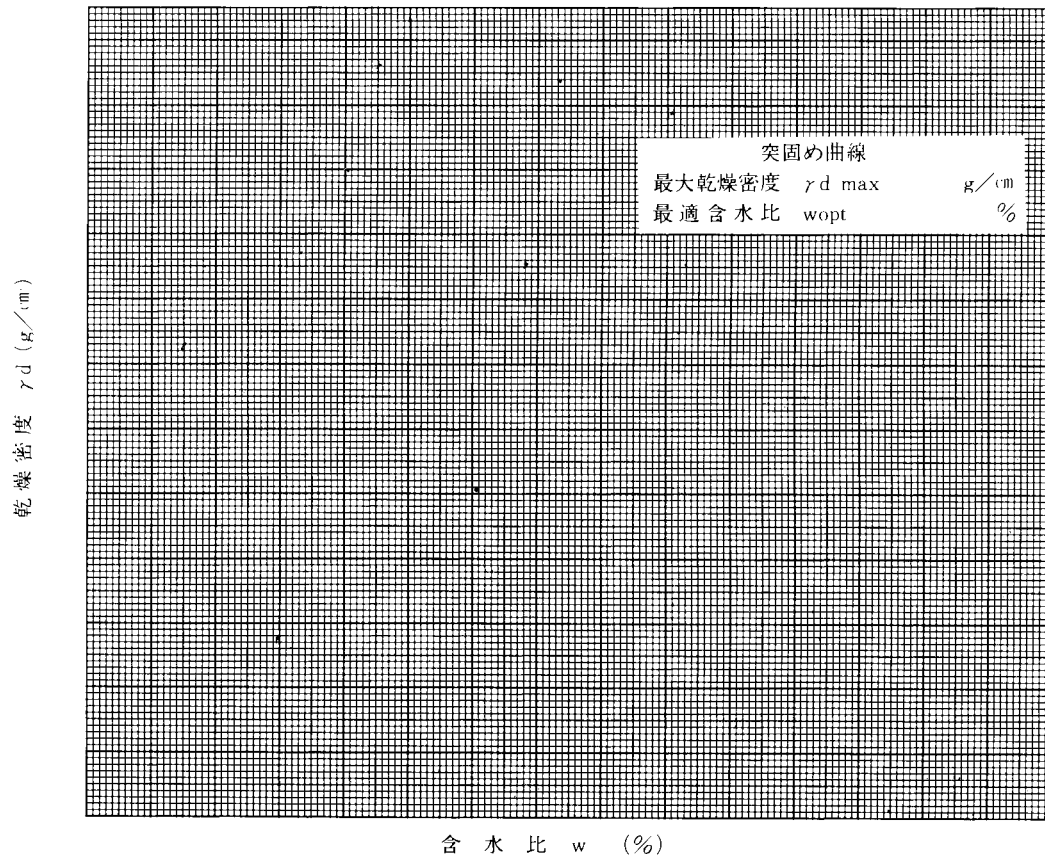
試料採取地名 \_\_\_\_\_

試料番号 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_ (印)

試験目的：普通締固め・CBR締固め      乾燥処理前含水比： \_\_\_\_\_ %      乾燥処理後含水比： \_\_\_\_\_ %  
 試験方法の呼び名：試験方法 \_\_\_\_\_      試験開始前含水比： \_\_\_\_\_ %      土粒子の密度： \_\_\_\_\_  
 突固め方法： \_\_\_\_\_      試料の使用別：繰返し法・非繰返し法  
 モールド内径：10cm・15cm \_\_\_\_\_ cm      試料の準備法：乾燥法・湿潤法  
 試料許容最大粒径 \_\_\_\_\_ mm      許容最大粒径以上の粗粒分の乾燥重量百分率 \_\_\_\_\_ %

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 $\gamma_d$ (g/cm <sup>3</sup> )								
平均含水比 $w$ (%)								



備考      \* その他突固め方法：ランマー重量 \_\_\_\_\_ kg,      落下高 \_\_\_\_\_ cm,      突固め回数 \_\_\_\_\_ 回/層( \_\_\_\_\_ 層)

            \*\* 湿潤法を用いた場合

様式 - 7

注 砂 法	現場における土の単位体積重量試験 (砂置換法)	報 告 用 紙
-------	-------------------------	---------

調査名・調査地点 \_\_\_\_\_ 試験年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

測点番号・深さ: No. \_\_\_\_\_ (m) \_\_\_\_\_ 天 \_\_\_\_\_ 候

所 属 \_\_\_\_\_ 試 験 者 \_\_\_\_\_

試験用の砂の検定	検 定 マ ス の 深 さ	H						
	測 定 器 番 号	No.						
	測定器および投入した砂重量 (一定重量)	$W_1$	g					
	測 定 器 重 量	$W_2$	〃					
	投 入 砂 重 量	$W_a = W_1 - W_2$	〃					
	検 定 容 器 お よ び 砂 重 量	$W_3$	〃					
	検 定 容 器 重 量	$W_4$	〃					
	検 定 容 器 内 砂 重 量	$W_b = W_3 - W_4$	〃					
	測 定 器 お よ び 残 砂 重 量	$W_5$	〃					
	測 定 器 内 残 砂 重 量	$W_c = W_5 - W_2$	〃					
	検 定 容 器 の 体 積	$V_c = 206 \times H$	cm <sup>3</sup>					
	試 験 砂 の 単 位 体 積 重 量	$\gamma_s = \frac{W_b}{V_c}$	g/cm <sup>3</sup>					
	平 均 値	$\gamma_s$	〃					
	ベースフレードおよび漏斗を 満たす砂重量	$W_f = W_a - W_b - W_c$	g					
平 均 値	$W_f$	〃						

土の単位体積重量測定	試 験 孔 番 号	No.					
	土 質 名						
	土 の 最 大 粒 径	$D_{max}$	cm				
	容 器 番 号	No.					
	(湿潤土+容器)の重量	$W_6$	g				
	容 器 の 重 量	$W_7$	〃				
	湿 潤 土 の 重 量	$W_d = W_6 - W_7$	〃				
	測定器および投入砂重量	$W_8(W_1)$	〃				
	測定器および残砂重量	$W_9$	〃				
	試験孔にはいった砂の重量	$W_{10} = W_8 - W_9 - W_f$	〃				
	試 験 孔 の 体 積	$V = W_{10} / \gamma_s$	cm <sup>3</sup>				
	土の湿潤単位体積重量	$\gamma_t = W_d / V$	g/cm <sup>3</sup>				
土の乾燥単位体積重量	$\gamma_d = \frac{100 \gamma_t}{100 + W}$						

備 考

土 粒 最 大 径	含 水 量 試 験 試 料 最 小 量	粒 度 試 験 最 小 量
0.5 mm	100 g	250 g
1.25	200 g	625
2.5	500 g	2,000
5.0	1,000 g	4,000

No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%	No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%	No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%	No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%
No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%	No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%	No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%	No. .... Wa ... Wb... Wb ... Wc... Ww... Ws... w = .....%
平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %	平均含水比 W = %



様式 - 9

凍上抑制層 材料試験成績一覧表  
路盤工

材 料 名	産、地	納入会社

凍上抑制層材料  
(火山灰)

75 μ 通過量	(%)
強熱減量	(%)
凍上率	(%)
凍結様式	

75 μ 通過量	(%)
(切込砂利・切込碎石)	
75 μ 通過量	(%)

粒 度

ふるい目	ふるい通過重量百分率(%)
呼び名	90mm 53mm 37.5mm 4.75mm

下層路盤材料

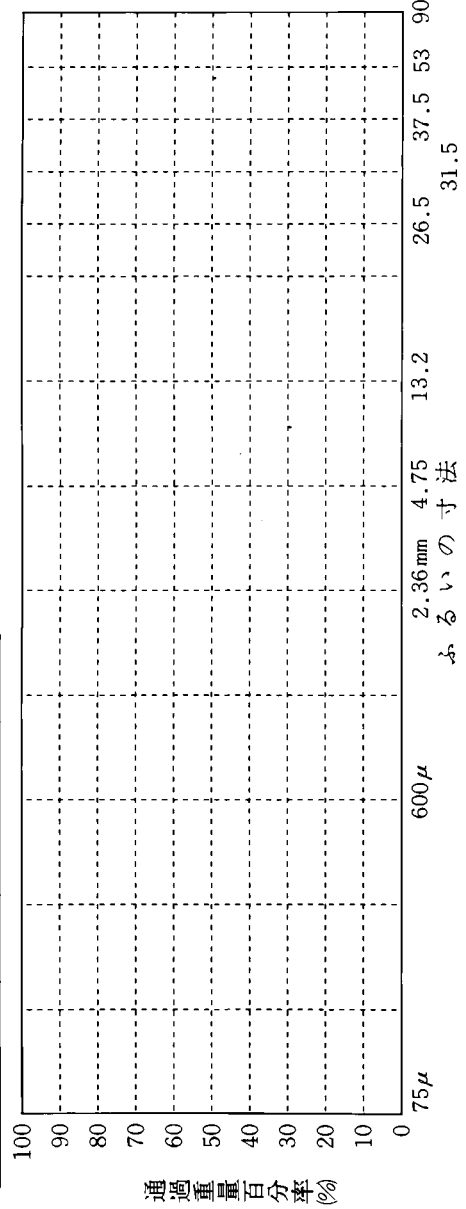
(切込砂利・切込碎石)

修正 C B R	R	(%)
すりへり量	量	(%)
安定性	性	(%)
75 μ 通過量	量	(%)

粒 度

ふるい目	ふるい通過重量百分率(%)
呼び名	53mm 37.5mm 13.2mm 2.36mm 600μ

75μ通過量—4.75mm以下の重量に対する75μ以下の重量の割合



加熱アスファルト安定処理材料  
(切込砂利・切込碎石)

比	重	
すりへり量	量	(%)
安定性	性	(%)

粒 度

ふるい目	ふるい通過重量百分率(%)
呼び名	37.5mm 31.5mm 26.5mm 13.2mm 2.36mm 75μ

記 事

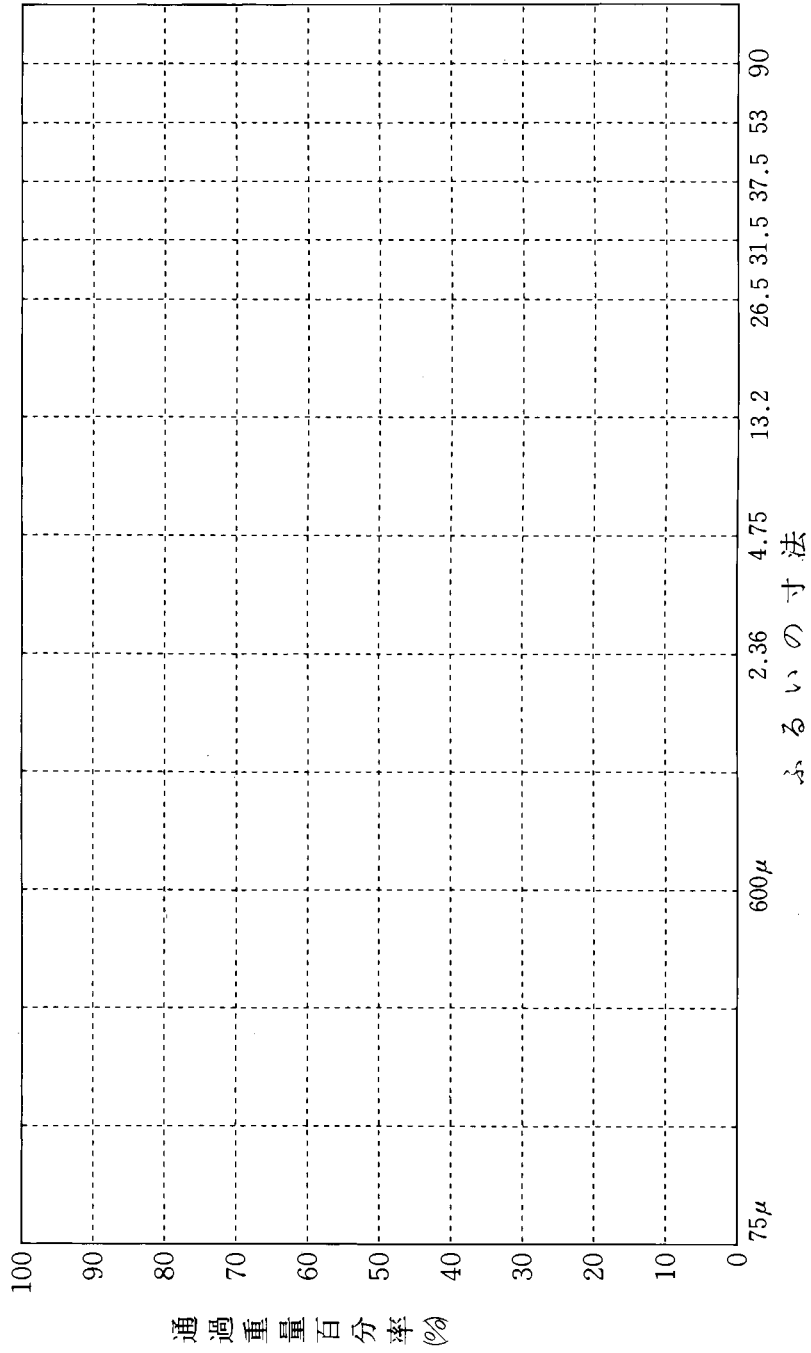
注) イ、産地及び材料ごとに記入すること。 ロ、仕様書の粒度範囲も記入すること。 ハ、記事欄には試験機関名その他の結果を記入すること。

様式-10

凍上抑制層材料のふるい分け試験一覧表  
下層路盤

材 料 名

測 定 者



記 事

注) 仕様書の粒度範囲を記入すること。

様式-11

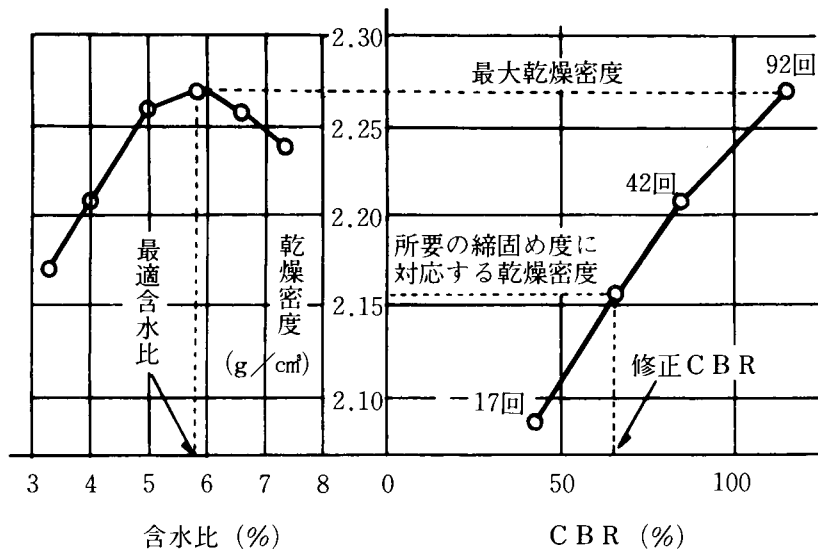
路盤材料の突固め及び修正CBR試験成績表

測定者

印

材料名	産地	納入会社

乾燥密度・含水比・CBR関係図



最適含水比 (%)	5.6
最大乾燥密度 (g/cm³)	2.27
締固め度 (%)	95
修正CBR (%)	66

記事

試験目的: CBR締固め

試験方法の呼び名: 試験方法 アスファルト舗装要綱

突固め方法: 第2法

試料の使用別: 非繰返し法

モールド内容: 15cm

試料の準備法: 乾燥法

試料許容最大粒径: 38.1mm

測定番号	1	2	3	4	5	6	7	8
乾燥密度 $rdg/cm^3$	2.17	2.21	2.25	2.27	2.25	2.23		
平均含水比 $w\%$	3.2	4.0	4.7	6.0	6.6	7.4		

(注) 記事欄には試験機関名その他を記入すること。

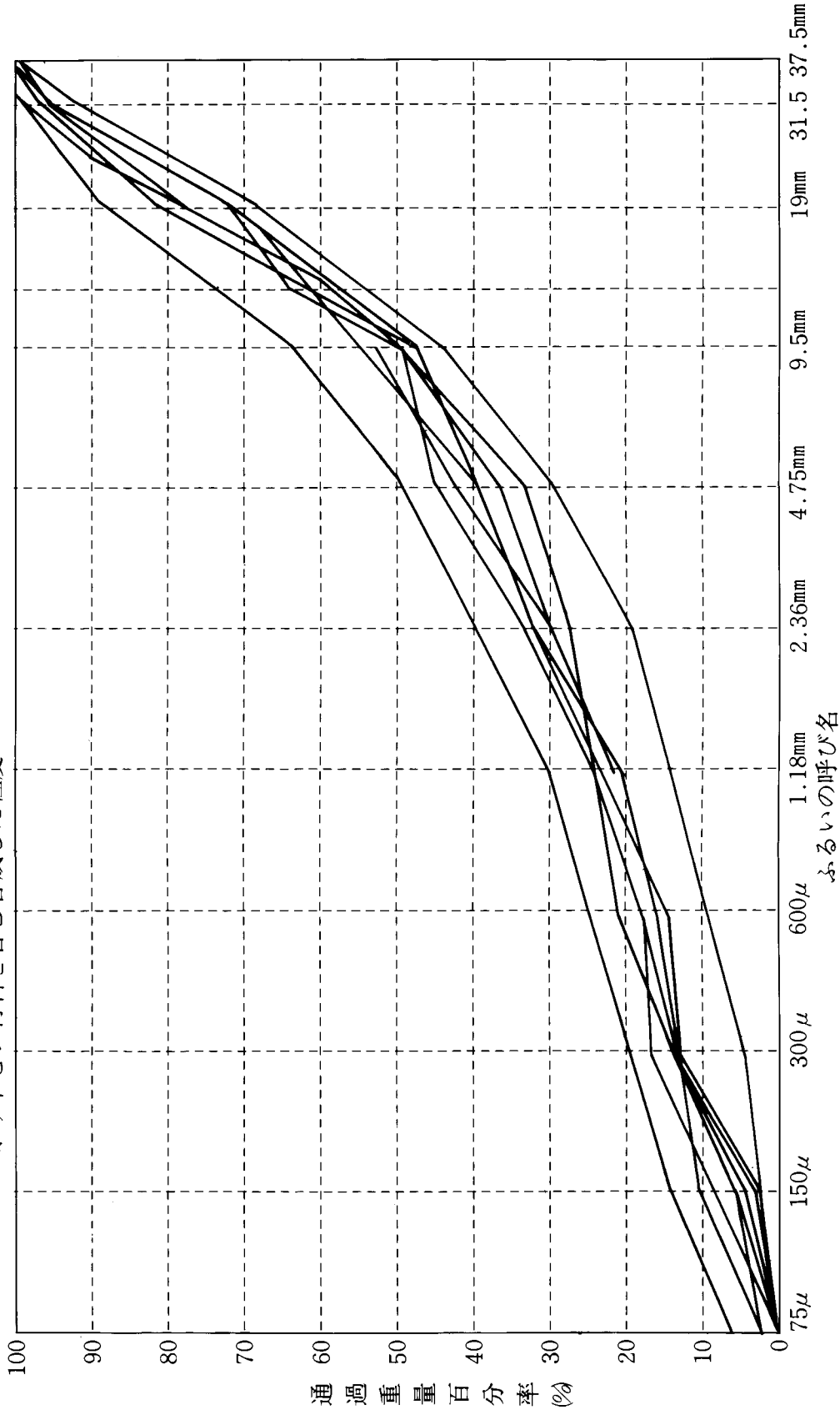






ふるい分け試験取まとめ図 (記載例)

ホットビン材料を含む合成した粒度



(記入要領) 各工種ごとに作製すること。

(混合物名)





様式-17

## 計 量 自 記 々 録 合 格 判 定 値

1. プ ラ ン ト

2. 合 材 の 種 類 細粒ギャップ・アスコン

3. 1バッチ当計量値 800 kg

4. 適 用 粒 度 1 ・ ②

※ 実施配合比及び配合値

骨材累積最終ビン	2.5mm直近ホットビン	石	粉	アスファルト
81.7%	38.4%	11.5%		6.8%
653.6 kg	307.2 kg	92.0 kg		54.4 kg

※ 合格判定値 I、II

項 目	判 定 項 目	合格判定値 I (kg)	合格判定値 II (%)
粒	骨材累積最終ビン	653.6 (±39.2)	—
		614.4~692.8	
度	2.5mm直近ホットビン	307.2 (±48.9)	53.0 (±11.0)
		258.3~356.1	42.0~64.0
石 粉	石 粉	92.0 (+19.9) (-13.8)	11.5 (+ 3.4) (- 2.3)
		78.2~119.9	9.2~14.9
アア スル フト	アスファルト	54.4 (± 3.5)	6.8 (± 0.8)
		50.9~ 57.9	6.0~ 7.6

上段：実施配合値（比）及び許容範囲

下段：計量値（比）許容範囲

様式-18

計量自記々録値判定成果

1. 合材の種類	細粒ギャップ・アスコン	№	
2. 施工年月日			
3. 記録バッチ数	589	無効バッチ数	4
		有効バッチ数	585
4. 合材出荷 t 数	467.835		

※各グループ別成果 (第1次合格判定)

グループ №	有効 バッチ数	範囲にはずれる個数				備 考
		A	B	C	D	
		骨材累積 最終ビン	2.5 mm直近 ホットビン	石 粉	アスファルト	
1	1~100	0	0	0	0	
2	101~200	0	0	1	0	
3	201~300	0	2	4	1	
4	301~400	0	0	1	0	
5	401~500	0	2	6	1	不合格→2次合格判定 舗設測定000~000
6	501~585 600	0	0	0	0	
7	601~700					
8	701~800					

※第2次合格判定

グループ№5のC.....407. 408. 452. 466. 489. 494

様式-19

コンクリート管理試験日報

採 取 日	年 月 日	天 候		気 温	最 高 ℃	最 低 ℃	測定者	⑩							
示 方 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	砂 (kg)	混和剤	水 (ℓ)	現 場 配 合	セメント (kg)	粗骨材 (kg)	細骨材 (kg)	混和材	水 (ℓ)	粗 細 骨 材 の 調 節	粗 材 の 量 の 調 節	骨 の 節 節	表 面 水 の 調 節
構 造 物	打 設 位 置	配 合 種 別	設 計 コ ン ク リ ー ト 量 (m <sup>3</sup> )	コ ン ク リ ー ト 打 設 量			コ ン ク リ ー ト 温 度 (℃)	ス ラ ン プ (cm)	空 気 量 (%)	供 試 体 採 用 数		備 考			
				バッチ数	m <sup>3</sup>					7日	28日				
供 試 体 記 号 ・ 番 号	配 合 種 別	養 生 方 法	試 験 材 令 (日)	供 試 体 質 量 (kg)	最 大 荷 量 (KN)	圧 縮 強 度 (N/mm <sup>2</sup> )		備 考							
						各 個	平 均								

記 事

注) レディーミクストコンクリートについては、現場配合の欄を省略することができる。

様式-20

空気量、スランプ等の取りまとめ図

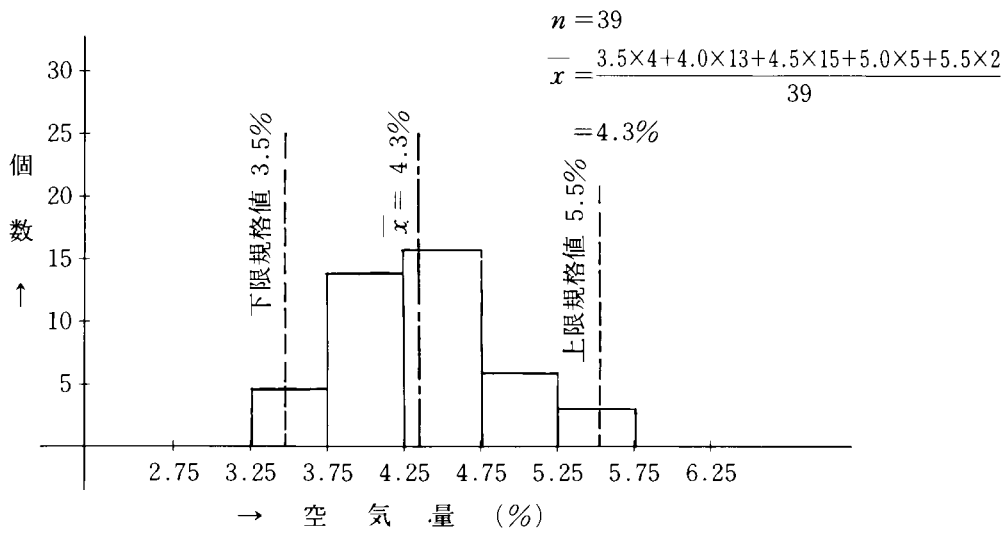
測定者 \_\_\_\_\_



配合種別 \_\_\_\_\_

I. 空気量の測定

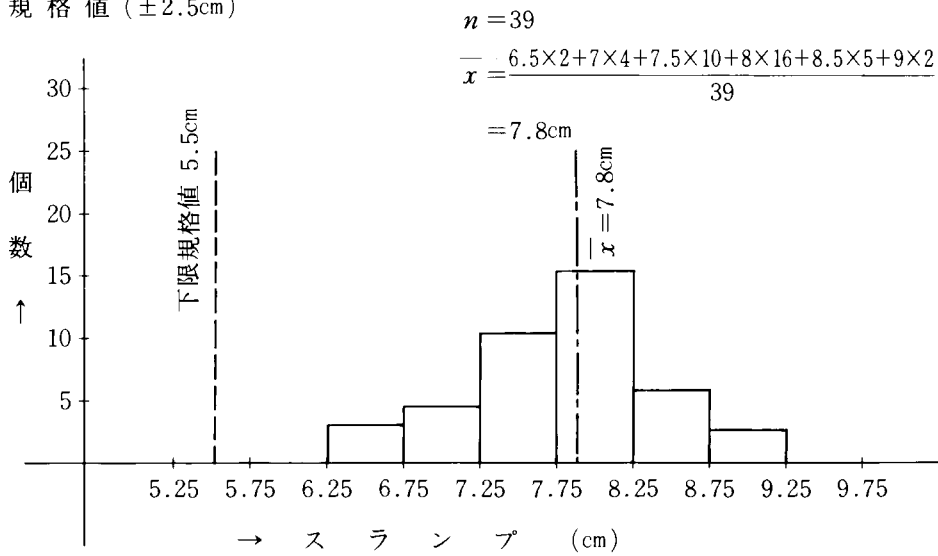
空気量 (4.5%) の場合



II. スランプの測定

スランプ (8 cm) の場合

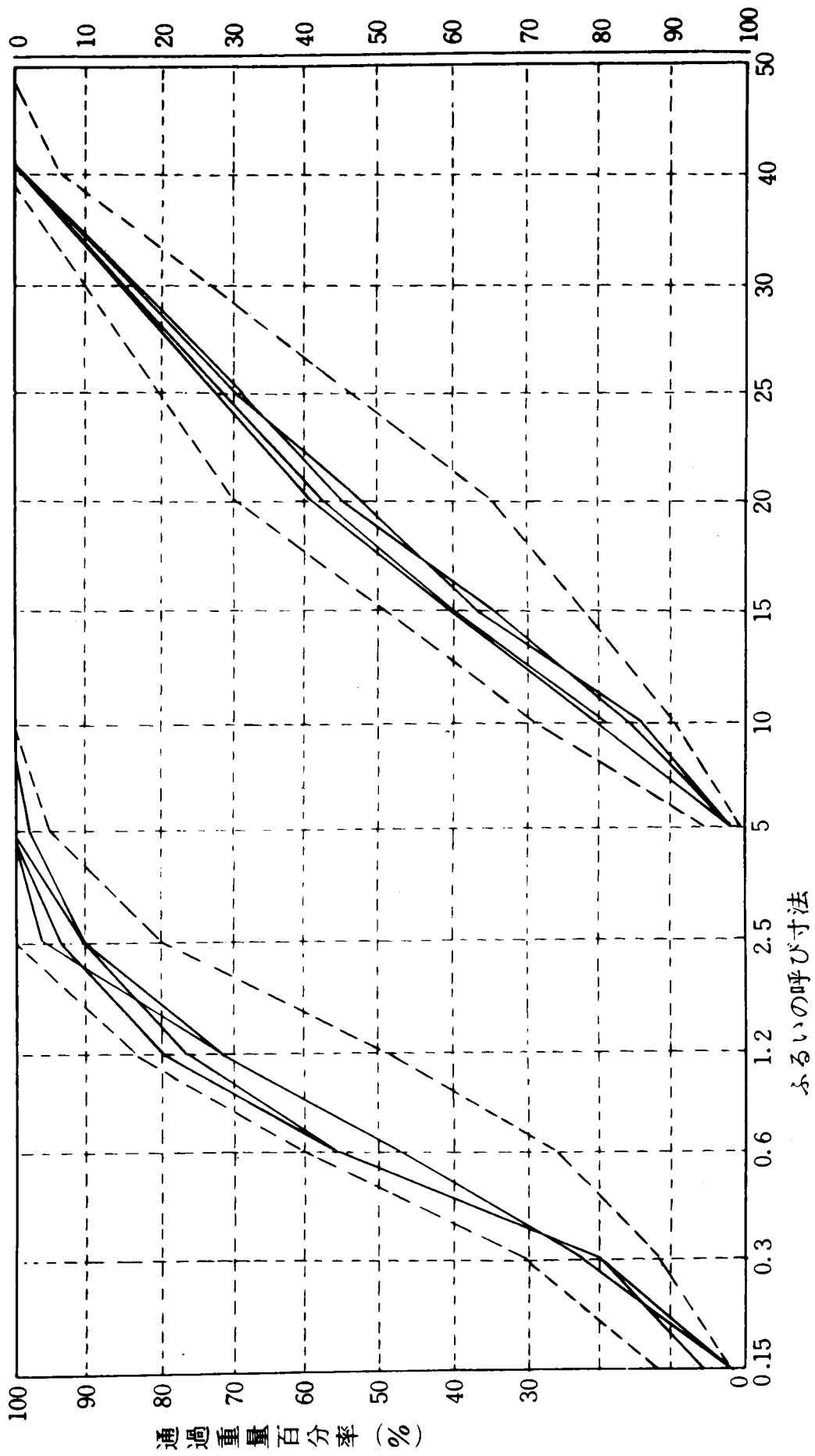
規格値 (±2.5cm)





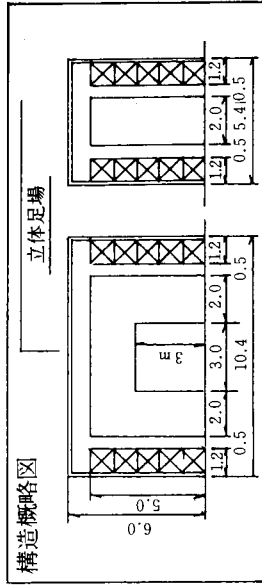


コンクリート骨材ふるい分け試験取まとめ図(記載例)



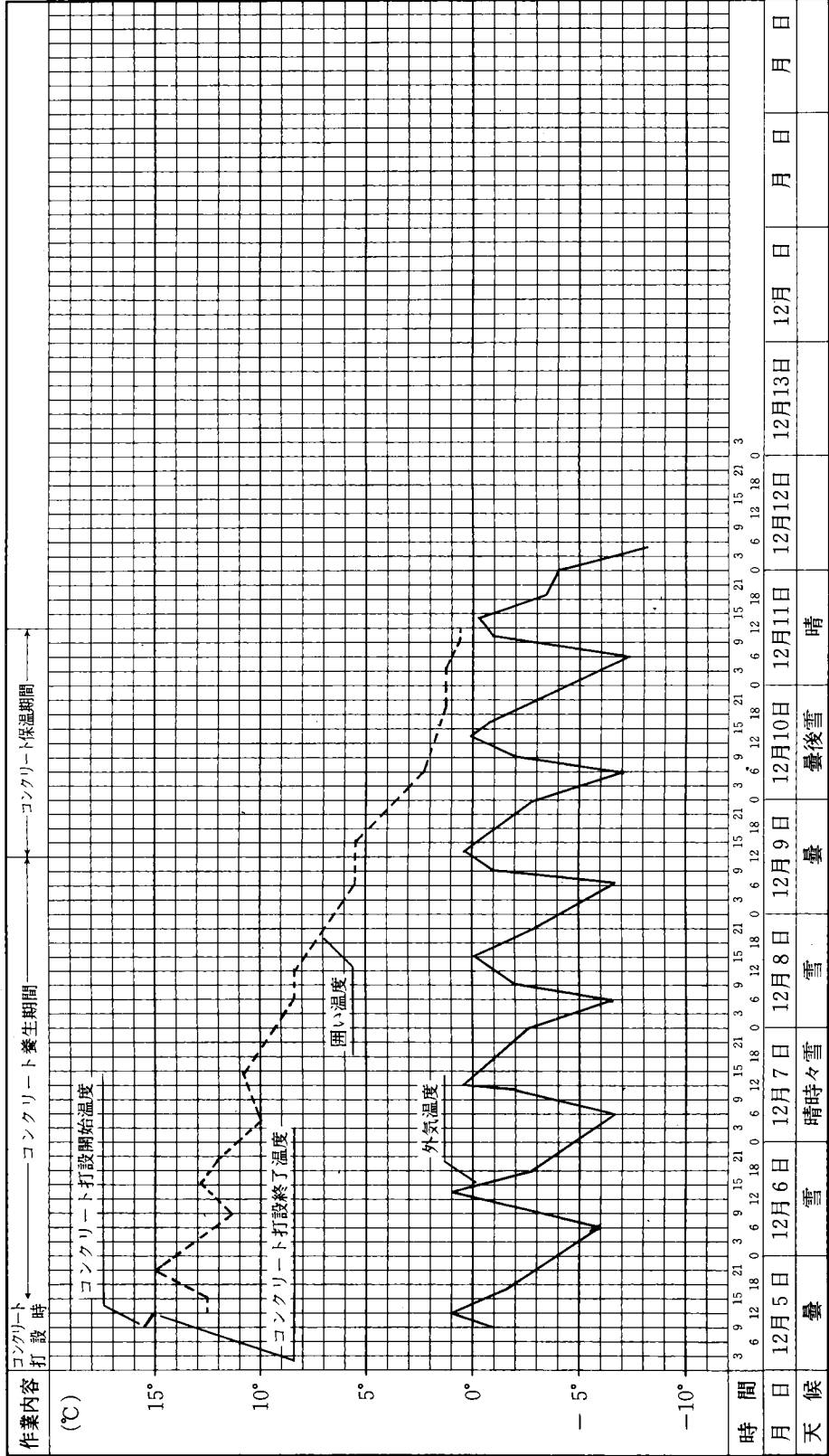


様式-24 寒中コンクリート温度管理記録表 (例)



構造物名	配合種別	設計量	打設量
橋脚駆体	RC-1	52.0	52.5
セメントの種類	構造場の露出状態		
普通ポルトランドセメント	普通の露出状態		

測定者	Ⓜ
-----	---



様式-25

レディーミクストコンクリート配合計画書										No. _____	
殿										平成 年 月 日	
製造会社・工場名 _____											
配合計画者名 _____											
工 事 名 称											
所 在 地											
納 入 予 定 時 期											
本 配 合 の 適 用 期 間 a)											
コンクリートの打込み箇所											
配 合 の 設 計 条 件											
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号					
指 定 事 項	セメントの種類	呼び方欄に記載		空気量				%			
	骨材の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量				kg/m <sup>3</sup>			
	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載		コンクリートの温度				最高最低 °C			
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)			水セメント比の目標値の上限				%			
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		単位水量の目標値の上限				kg/m <sup>3</sup>			
	水の区分	使用材料欄に記載		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限				kg/m <sup>3</sup>			
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		流動化後のスランブ増大量				cm			
	塩化物含有量			kg/m <sup>3</sup> 以下							
	呼び強度を保証する材齢			日							
使 用 材 料 c)											
セメント	生産者名			密度 g/cm <sup>3</sup>			Na <sub>2</sub> Oeq d)			%	
混和材	製品名	種類		密度 g/cm <sup>3</sup>			Na <sub>2</sub> Oeq e)			%	
骨 材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 f)		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実績率 h)	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲 % i)	
				区 分	試験方法			絶 乾	表 乾		
細 骨 材	①										
	②										
	③										
粗 骨 材	①										
	②										
	③										
混和剤①	製品名			種類			Na <sub>2</sub> Oeq j)				
混和剤②							%				
細骨材の塩化物量 k)		%		水の区分 l)				目標スラッジ固形分率 m)		%	
配 合 表 n) kg/m <sup>3</sup>											
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	
水セメント比		%		水結合材比 o)		%		細 骨 材 率		%	
備考 骨材の質量配合割合 p)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。											

様式-25

レディーミクストコンクリート配合計画書（続き）

アルカリ総量の計算表 <sup>1)</sup>			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_c$ $R_c = (\text{単位セメント量kg/m}^3) \times (\text{セメント中の全アルカリ量Na}_2\text{Oeq: \%}/100)$	① = $R_c$	—	
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_a$ $R_a = (\text{単位混和材量kg/m}^3) \times (\text{混和材中の全アルカリ量: \%}/100)$	② = $R_a$	—	
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_s$ $R_s = (\text{単位骨材量kg/m}^3) \times 0.53 \times (\text{骨材中のNaClの量: \%}/100)$	③ = $R_s$	—	
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_m$ $R_m = (\text{単位混和剤量kg/m}^3) \times (\text{混和剤中の全アルカリ量: \%}/100)$	④ = $R_m$	—	
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_p$ <sup>r)</sup> $R_p = (\text{単位流動化剤量kg/m}^3) \times (\text{流動化剤中の全アルカリ量: \%}/100)$	⑤ = $R_p$	—	
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m <sup>3</sup> ) $R_t$ $R_t = ① + ② + ③ + ④ + ⑤$	$R_t$	3.0kg/m <sup>3</sup> 以下	適・否

用紙の大きさは、日本工業規格A列4番（210×297mm）とする。

注 a) 本配合の適用区間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。

なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。

b) JIS A 5308 附属書 B 表B.1の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。

c) 配合設計に用いた材料について記入する。

d) ポルトランドセメント及び普通エコセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210 の全アルカリの値としては、直近6ヶ月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。

e) 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。

f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。

g) 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生細骨材Hでは粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材Hでは粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。

h) 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗粒率の値を記入する。

i) 砕石及び砕砂を使用する場合に記入する。

j) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。

k) 最新版の骨材試験成績表の値（NaClとして）を記入する。

l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水（スラッジ水）”と記入する。

m) スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保証できるように定めた値である。

n) 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。

o) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

p) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。

q) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ別表に記入する。

r) 購入者から通知を受けたアルカリ量を用いて計算する。

レディーミクストコンクリート納入書										
殿						平成 年 月 日				
製造会社・工場名										
納入場所										
運搬車番号										
納入時刻			発着		時 分					
納入容積			m <sup>3</sup>		累計		m <sup>3</sup>			
呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度		スランプ又はスランプフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm		セメントの種類による記号	
配合表 <sup>a)</sup> kg/m <sup>3</sup>										
セメント	混和材	水	細骨材	細骨材	細骨材	粗骨材	粗骨材	粗骨材	混和剤	混和剤
水セメント比		%		水結合材比 <sup>b)</sup>		%		細骨材率		%
備考 配合の種類： 標準配合 修正標準配合 計量読取記録から算出した単位量 計量印字記録から算出した単位量 計量印字記録から自動算出した単位量										
荷受職員認印							出荷係認印			

注記 用紙の大きさは、日本工業規格A列5番(148mm×210mm)又はB列5番(182mm×257mm)とするのが望ましい。

注 a) 標準配合、修正標準配合、計量読取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記載する。また、備考欄の配合種別については、該当する項目にマークを付す。

b) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

様式-27

注入モルタル  
プレパクトコンクリート

管理試験日報

供試体採取年月日	年月日		天候	気温	最高℃	最低℃	受注者	測定者				
モルタル配合	水(l)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(%)	水給合材比(%)	摘要			
モルタル配合	水(l)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m <sup>3</sup> )	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(g)	水セメント比(%)	水給合材比(%)	摘要			
構造物	打設位置	設計プレパクトコンクリート量(m <sup>3</sup> )	モルタル打設量		モルタル温度(℃)	フロー値(秒)	ブリーディング率(%)	膨張率(%)	供試体採取日			
			バッチ数	m <sup>3</sup>					7日	28日	91日	
供試体番号	配合種別	養生方法	試験材令(日)	供試体質量(kg)	最大荷重(KN)	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )						
						各個	平均					
モルタル												
コンクリート												
記事												

## 注入コンクリート報告書

平成      年      月      日

様    工事名

注入個所		粗骨材 充填月日		填 充 量	
注 入 時 刻	開 始	前 後	時	分	所 要
	終 了	前 後	時	分	時 間
注 入 量	バッチ 数		総量		セメント 使用量
フ ロー 値	1 回		2 回		3 回
					4 回
					5 回
注入状況その他（パイプ配置略図等）					
監督員認印		報告者認印			



様式-29

## 注人コンクリート配合報告書

様 施行者

整理番号		報告年月日		配合計画者名			
工事名							
所在地							
注入コンクリート施工場所				所要フロー値			
セメント種別		製造会社名		単位セメント量	kg/m <sup>3</sup>		
フライアッシュ種別(会社別)		分散剤		ポゾリス No 8	濃度		
細骨材		最大寸法	mm	粗粒率	% 比重		
砂利、碎石		同上	mm	空隙率	% 同上		
最大セメント水比	% 4週圧縮強度				kg/m <sup>3</sup>		
標準配合表							
	セメント	フライアッシュ	細骨材	ポゾリス No 8	アルミ粉末	水	フロー値
	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	kg/m <sup>3</sup>	ℓ/m <sup>3</sup>	sec
材料所要量							
一パッチ材料所要量							
重量配合比					水、セメント比	%	
配合設計の方法その他							

様式-30

PCグラウト工試験

平成	年	月	日
天候			

測定者 印

試験番号 \_\_\_\_\_

試験場所 \_\_\_\_\_

測定開始時刻 午前・後 時 分

測定終了時刻 午前・後 時 分

気温 \_\_\_\_\_ °C

セメント温度 \_\_\_\_\_ °C

使用水温 \_\_\_\_\_ °C

グラウト温度 \_\_\_\_\_ °C

1. 材料

材 料	種 類	製造業者
セメント		
フライアッシュ		
セメント分散剤		
A L 粉 末		

2. 練り混ぜ

ミキサ \_\_\_\_\_

ミキサの回転数 \_\_\_\_\_ 回/分

練り混ぜ時間 \_\_\_\_\_ 分

材料投入時間 \_\_\_\_\_ 分 秒

3. バッチ配合

W/C	C	W	Pozz	AL	AL/C
(%)	(kg)	(kg)	(g)	(g)	(%)

4. 試験

練り混ぜ後放置時間	分
	秒
流下時間	秒
	秒

番号	直後の読み (cc)	3時間経過後の読み		20時間以上経過 後の読み		ブリージング率		膨張率 (%)	
		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間 以上

圧縮強度試験					圧縮強度試験				
番号	材令	荷重(KN)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備考	番号	材令	荷重(KN)	圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備考
平均					平均				

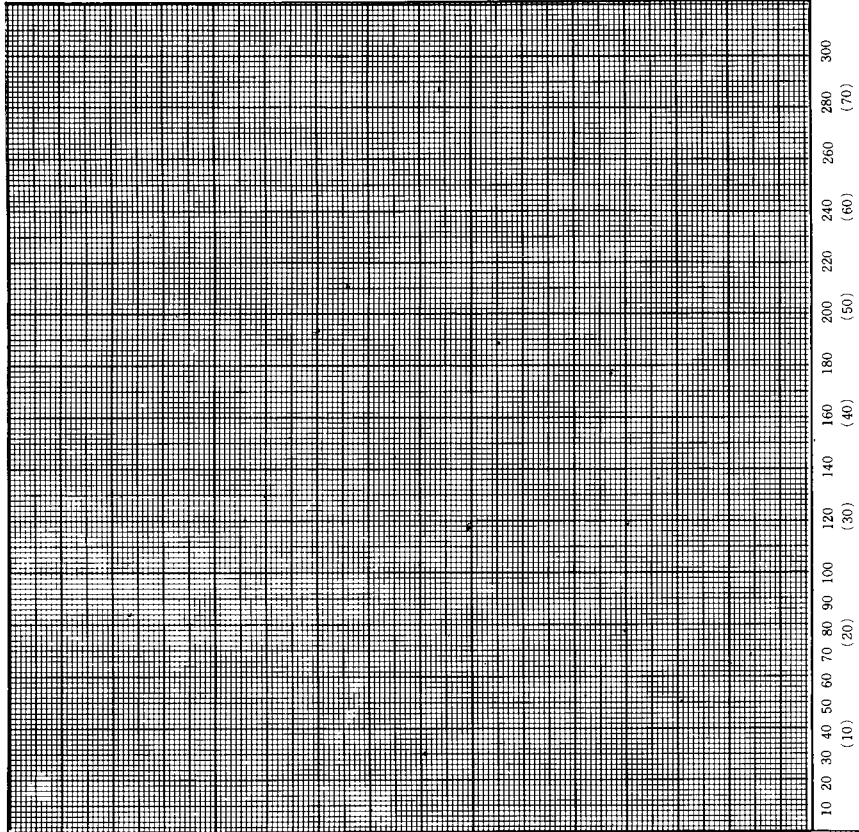
様式-31

プレスストレッチング管理表(1)

緊張年月日	平成	年	月	日
けた番号	No			
ケーブール No	C			
緊張順序				

測定者

圧力計 (kg/cm <sup>2</sup> )	伸び (mm)		合計
	方	方	
P <sub>2</sub>	Δℓ	Δℓ	ΣΔℓ
300			
250			
200			
150			
100			
50			
0 補整			
補整全伸び			



コンクリート打設	年	月	日
コンクリートの圧縮度	σ =	N/mm <sup>2</sup> (自然養生)	
	σ =	N/mm <sup>2</sup> (乾養生)	
支間中央最終戻り値	mm		
短縮量	mm		

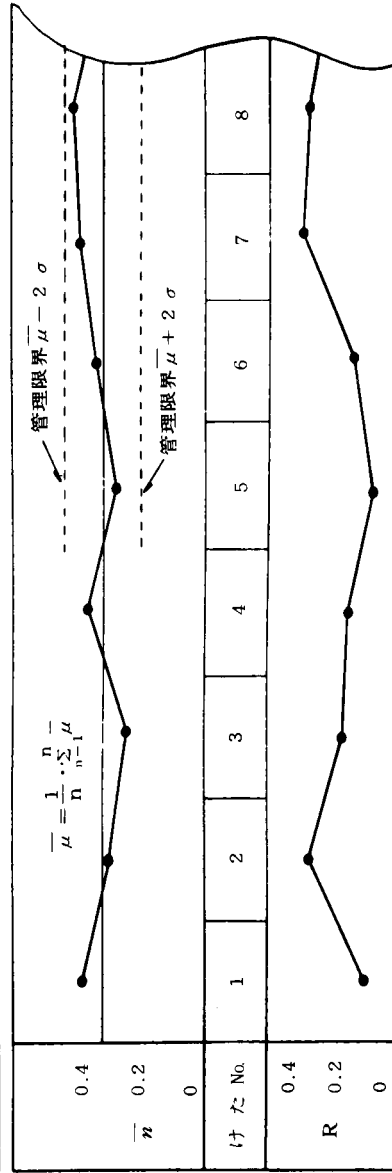
緊張上の特記事項	
晴・曇・雨	気温 ℃

様式-32

## プレストレッシング管理表(2)

(PCケーブルの組による管理)

けた番号	1	2	3	4
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値( $\mu$ )	0.37 0.27 0.36 0.34 0.40 0.40	0.18 0.30 0.20 0.10 0.40 0.45		
$\mu$ の平均値( $\bar{\mu}$ )	0.375			
$\mu$ の範囲(R)	0.13			
けた番号	8	9	10	11
ケーブル番号	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
摩擦係数の値( $\mu$ )	0.28 0.63 0.38 0.34 0.35 0.29			
$\mu$ の平均値( $\bar{\mu}$ )	0.378			
$\mu$ の範囲(R)	0.35			



様式-33

高力ボルト締付け検査記録票

検査年月日	年月日	測定者	⑩	
高力ボルトの種類	締付けボルト軸力		N・m (kgf・m)	
インパクトレンチ ボルトの軸力計 トルクレンチ 柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型	社製 社製 社製 社製	測定トルク値	算出トルク数	所要軸力になるためのトルク値
インパクトレンチの検定				
	午前 (作業開始前)	午後 (作業開始後)	作業完了	
測定軸力				
セットした軸力				
箇所	検査本数	所要トルク (T)	測定トルク値N・m (kgf・m)	合計
				平均
				差
				許容トルク値
				略図及び名称

高力ボルト締付け検査記録票

検査年月日	年月日	測定者	①	
高力ボルトの種類	F I O T	締付けボルト軸力	$20.5 \times 1.1^2 = 22.5 \text{ kg} \cdot \text{m}$	
インパクトレンチ ボルト軸力計 トルクレンチ 柄のタフミによる型 ダイヤル目盛型	社製 社製 社製 社製	トルク係数値およびトルク値の算出試験 (ボルト各サイズごと)	所用軸力になるための トルク値 $T = 0.123 \times 2.2 \times 22,500$ $= 6,100 \text{ kg} \cdot \text{cm}$	
インパクトレンチの検定		算出トルク数	$T = K \times d \times N$ $T = \text{トルク値}$ $K = \text{トルク係数}$ $d = \text{ボルト円筒部径の基本値}$ $N = \text{ボルト軸力}$	
午 前 (作業開始前)	午 後 (作業開始前)	測定トルク値	$T = 24.0$ $T = 22.0$ $T = 21.5$ $T = 22.0$ $T = 22.0$	
6,180	6,200	測定トルク係	$0.121$ $0.128$ $0.128$ $0.124$ $0.128$ $0.126$	
6,100		測定トルク値		
検査本数	測定トルク値 (kg·m)	合計	平均	誤差
4本 24本中	2~0 6,200 10~11 6,100 12~13 6,100 16~17 6,400	25,200	6,300	3.3%
5本 48本中	4~8 6,200 9~10 6,500 11~11 6,200 18~17 6,100	31,600	6,320	3.6%
5本 48本中	11~11 6,200 18~17 6,100	31,700	6,220	2.0%
4本 24本中	6,400 6,100 6,200	25,100	6,275	2.8%
箇所	所用トルク (T)	測定トルク	許容トルク値	$T_a = T \times (1 \pm 0.1^{\circ})$
F-1(U.Fling)	6,100	6,200	U.Fling	
"	"	6,500	L.Fling	
*(Web:L)	"	6,200		
*(Web:R)	"	6,100		
*(L.Fling)	"	6,400		

様式-34

キャンパバー測定記録表

工程	測定箇所	測 定 者		
		架 設 後	測 定	者
計画高(製作時)			㊦	㊦
鋼げた	計画高			
架 設	施工高			
完了時	差			
床 版	計画高			
打 設	施工高			
完了時	差			
高 欄	計画高			
地 覆	施工高			
完了時	差			
舗 装	測票高			
完了時	計画高			
	施工高			
	差			

注. 地覆施工時、地覆部に接点数の1/2程度の数の測標を設置するものとする。  
 測標はさびにくい材料によるものとし、舗装完了時の測標高を記録するものとする。

様式-35

膜厚測定記録

塗装系		系					測定日時	年月日		
測定時間		工場後	現場後			測定者		⑩		
構造名							目標塗膜厚合計			
測定位置	測定値	1	2	3	4	5	平均 $X_i$	平方根 $\bar{X}-X_i$ $(\bar{X}-X_i)^2$		備考
G <sub>1</sub> -1	A									
	B									
	C									
	D									
	E									
	F									
	G									
	H									
	I									
	J									
	K									
	L									
	M									
	N									
合計								合計		
平均値 $\bar{X} =$										

平均値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X_i$	
標準偏差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^n (\bar{X} - X_i)^2}$	



様式-36

## 塗膜厚の度数分布表

記録者 \_\_\_\_\_

⑩

膜厚 ( $\mu$ ) $X_i$	測定点個数 $f_i$	膜厚 ( $\mu$ ) $X_i$	測定点個数 $f_i$
20 ~ 29		110 ~ 119	
80 ~ 89		120 ~ 129	
90 ~ 99		130 ~ 139	
100 ~ 109		140 ~ 149	
		合 計	

